

## 医薬品インタビューフォーム

日本病院薬剤師会のIF記載要領2013に準拠して作成

持続性選択 H<sub>1</sub> 受容体拮抗・アレルギー性疾患治療剤  
**ロラタジン OD 錠 10mg「NIG」**  
Loratadine OD Tab.

剤形	素錠（口腔内崩壊錠）
製剤の規制区分	なし
規格・含量	1錠中ロラタジン 10.0mg を含有
一般名	和名：ロラタジン 洋名：Loratadine
製造販売承認年月日 薬価基準収載・発売年月日	承認年月日：2012年 6月 15日 薬価基準収載：2022年 6月 17日 発売年月日：2011年 11月 28日
開発・製造販売（輸入）・ 提携・販売会社名	販売：武田薬品工業株式会社 発売元：日医工株式会社 製造販売元：日医工岐阜工場株式会社
医薬情報担当者の連絡先	
問い合わせ窓口	日医工株式会社 お客様サポートセンター TEL：0120-517-215 FAX：076-442-8948 医療関係者向けホームページ <a href="https://www.nichiiko.co.jp/">https://www.nichiiko.co.jp/</a>

本IFは2022年6月改訂（第11版，承継に伴う改訂）の添付文書の記載に基づき改訂した

最新の添付文書情報は，医薬品医療機器総合機構ホームページ  
<https://www.pmda.go.jp/>にてご確認下さい。

## IF利用の手引きの概要 —日本病院薬剤師会—

### 1. 医薬品インタビューフォーム作成の経緯

医療用医薬品の基本的な要約情報として医療用医薬品添付文書（以下、添付文書と略す）がある。医療現場で医師・薬剤師等の医療従事者が日常業務に必要な医薬品の適正使用情報を活用する際には、添付文書に記載された情報を裏付ける更に詳細な情報が必要な場合がある。

医療現場では、当該医薬品について製薬企業の医薬情報担当者等に情報の追加請求や質疑をして情報を補完して対処してきている。この際に必要な情報を網羅的に入手するための情報リストとしてインタビューフォームが誕生した。

昭和63年に日本病院薬剤師会（以下、日病薬と略す）学術第2小委員会が「医薬品インタビューフォーム」（以下、IFと略す）の位置付け並びにIF記載様式を策定した。その後、医療従事者向け並びに患者向け医薬品情報ニーズの変化を受けて、平成10年9月に日病薬学術第3小委員会においてIF記載要領の改訂が行われた。

更に10年が経過し、医薬品情報の創り手である製薬企業、使い手である医療現場の薬剤師、双方にとって薬事・医療環境は大きく変化したことを受けて、平成20年9月に日病薬医薬情報委員会においてIF記載要領2008が策定された。

IF記載要領2008では、IFを紙媒体の冊子として提供する方式から、PDF等の電磁的データとして提供すること（e-IF）が原則となった。この変更にあわせて、添付文書において「効能・効果の追加」、「警告・禁忌・重要な基本的注意の改訂」などの改訂があった場合に、改訂の根拠データを追加した最新版のe-IFが提供されることとなった。

最新版のe-IFは、（独）医薬品医療機器総合機構のホームページ（<https://www.pmda.go.jp/>）から一括して入手可能となっている。日本病院薬剤師会では、e-IFを掲載する医薬品情報提供ホームページが公式サイトであることに配慮して、薬価基準収載にあわせてe-IFの情報を検討する組織を設置して、個々のIFが添付文書を補完する適正使用情報として適切か審査・検討することとした。

2008年より年4回のインタビューフォーム検討会を開催した中で指摘してきた事項を再評価し、製薬企業にとっても、医師・薬剤師等にとっても、効率の良い情報源とすることを考えた。そこで今般、IF記載要領の一部改訂を行いIF記載要領2013として公表する運びとなった。

### 2. IFとは

IFは「添付文書等の情報を補完し、薬剤師等の医療従事者にとって日常業務に必要な、医薬品の品質管理のための情報、処方設計のための情報、調剤のための情報、医薬品の適正使用のための情報、薬学的な患者ケアのための情報等が集約された総合的な個別の医薬品解説書として、日病薬が記載要領を策定し、薬剤師等のために当該医薬品の製薬企業に作成及び提供を依頼している学術資料」と位置付けられる。

ただし、薬事法・製薬企業機密等に関わるもの、製薬企業の製剤努力を無効にするもの及び薬剤師自らが評価・判断・提供すべき事項等はIFの記載事項とはならない。言い換えると、製薬企業から提供されたIFは、薬剤師自らが評価・判断・臨床適応するとともに、必要な補完をするものという認識を持つことを前提としている。

#### 【IFの様式】

- ①規格はA4版、横書きとし、原則として9ポイント以上の字体（図表は除く）で記載し、一色刷りとする。ただし、添付文書で赤枠・赤字を用いた場合には、電子媒体ではこれに従うものとする。
- ②IF記載要領に基づき作成し、各項目名はゴシック体で記載する。
- ③表紙の記載は統一し、表紙に続けて日病薬作成の「IF利用の手引きの概要」の全文を記載するものとし、2頁にまとめる。

#### 【IFの作成】

- ①IFは原則として製剤の投与経路別（内用剤、注射剤、外用剤）に作成される。
- ②IFに記載する項目及び配列は日病薬が策定したIF記載要領に準拠する。
- ③添付文書の内容を補完するとのIFの主旨に沿って必要な情報が記載される。
- ④製薬企業の機密等に関するもの、製薬企業の製剤努力を無効にするもの及び薬剤師をはじめ医療従事者自らが評価・判断・提供すべき事項については記載されない。
- ⑤「医薬品インタビューフォーム記載要領2013」（以下、「IF記載要領2013」と略す）により作成されたIFは、電子媒体での提供を基本とし、必要に応じて薬剤師が電子媒体（PDF）から印刷して使用する。企業での製本は必須ではない。

## **【IFの発行】**

- ①「IF記載要領2013」は、平成25年10月以降に承認された新医薬品から適用となる。
- ②上記以外の医薬品については、「IF記載要領2013」による作成・提供は強制されるものではない。
- ③使用上の注意の改訂、再審査結果又は再評価結果（臨床再評価）が公表された時点並びに適応症の拡大等がなされ、記載すべき内容が大きく変わった場合にはIFが改訂される。

### **3. IFの利用にあたって**

「IF記載要領2013」においては、PDFファイルによる電子媒体での提供を基本としている。情報を利用する薬剤師は、電子媒体から印刷して利用することが原則である。

電子媒体のIFについては、医薬品医療機器総合機構の医薬品医療機器情報提供ホームページに掲載場所が設定されている。

製薬企業は「医薬品インタビューフォーム作成の手引き」に従って作成・提供するが、IFの原点を踏まえ、医療現場に不足している情報やIF作成時に記載し難い情報等については製薬企業のMR等へのインタビューにより薬剤師等自らが内容を充実させ、IFの利用性を高める必要がある。

また、随時改訂される使用上の注意等に関する事項に関しては、IFが改訂されるまでの間は、当該医薬品の製薬企業が提供する添付文書やお知らせ文書等、あるいは医薬品医療機器情報配信サービス等により薬剤師等自らが整備するとともに、IFの使用にあたっては、最新の添付文書を医薬品医療機器情報提供ホームページで確認する。

なお、適正使用や安全性の確保の点から記載されている「臨床成績」や「主な外国での発売状況」に関する項目等は承認事項に関わることもあり、その取扱いには十分留意すべきである。

### **4. 利用に際しての留意点**

IFを薬剤師等の日常業務において欠かすことができない医薬品情報源として活用して頂きたい。しかし、薬事法や医療用医薬品プロモーションコード等による規制により、製薬企業が医薬品情報として提供できる範囲には自ずと限界がある。IFは日病薬の記載要領を受けて、当該医薬品の製薬企業が作成・提供するものであることから、記載・表現には制約を受けざるを得ないことを認識しておかなければならない。

また製薬企業は、IFがあくまでも添付文書を補完する情報資材であり、今後インターネットでの公開等も踏まえ、薬事法上の広告規制に抵触しないよう留意し作成されていることを理解して情報を活用する必要がある。

(2013年4月改訂)

# 目 次

<b>I. 概要に関する項目</b> .....	1	<b>VI. 薬効薬理に関する項目</b> .....	11
1. 開発の経緯.....	1	1. 薬理学的に関連ある化合物又は化合物群 ...	11
2. 製品の治療学的・製剤学的特性 .....	1	2. 薬理作用 .....	11
<b>II. 名称に関する項目</b> .....	2	<b>VII. 薬物動態に関する項目</b> .....	12
1. 販売名 .....	2	1. 血中濃度の推移・測定法.....	12
2. 一般名 .....	2	2. 薬物速度論的パラメータ .....	13
3. 構造式又は示性式 .....	2	3. 吸収 .....	13
4. 分子式及び分子量 .....	2	4. 分布 .....	13
5. 化学名（命名法） .....	2	5. 代謝 .....	13
6. 慣用名，別名，略号，記号番号 .....	2	6. 排泄 .....	14
7. CAS登録番号 .....	2	7. トランスポーターに関する情報.....	14
<b>III. 有効成分に関する項目</b> .....	3	8. 透析等による除去率.....	14
1. 物理化学的性質 .....	3	<b>VIII. 安全性（使用上の注意等）に関する項目</b> .....	15
2. 有効成分の各種条件下における安定性 .....	3	1. 警告内容とその理由 .....	15
3. 有効成分の確認試験法.....	3	2. 禁忌内容とその理由（原則禁忌を含む） ...	15
4. 有効成分の定量法 .....	3	3. 効能又は効果に関連する使用上の注意とその理由 .....	15
<b>IV. 製剤に関する項目</b> .....	4	4. 用法及び用量に関連する使用上の注意とその理由 .....	15
1. 剤形.....	4	5. 慎重投与内容とその理由.....	15
2. 製剤の組成.....	4	6. 重要な基本的注意とその理由及び処置方法	15
3. 懸濁剤，乳剤の分散性に対する注意 .....	4	7. 相互作用 .....	15
4. 製剤の各種条件下における安定性 .....	5	8. 副作用.....	16
5. 調製法及び溶解後の安定性 .....	7	9. 高齢者への投与 .....	17
6. 他剤との配合変化（物理化学的変化） .....	7	10. 妊婦，産婦，授乳婦等への投与.....	17
7. 溶出性.....	8	11. 小児等への投与 .....	17
8. 生物学的試験法 .....	9	12. 臨床検査結果に及ぼす影響 .....	17
9. 製剤中の有効成分の確認試験法 .....	9	13. 過量投与 .....	17
10. 製剤中の有効成分の定量法 .....	9	14. 適用上の注意.....	17
11. 力価.....	9	15. その他の注意.....	17
12. 混入する可能性のある夾雑物.....	9	16. その他.....	17
13. 注意が必要な容器・外観が特殊な容器に関する情報 .....	9	<b>IX. 非臨床試験に関する項目</b> .....	18
14. その他.....	9	1. 薬理試験 .....	18
<b>V. 治療に関する項目</b> .....	10	2. 毒性試験 .....	18
1. 効能又は効果 .....	10	<b>X. 管理的事項に関する項目</b> .....	19
2. 用法及び用量 .....	10	1. 規制区分 .....	19
3. 臨床成績 .....	10		

2. 有効期間又は使用期限.....	19
3. 貯法・保存条件 .....	19
4. 薬剤取扱い上の注意点.....	19
5. 承認条件等.....	19
6. 包装.....	19
7. 容器の材質.....	19
8. 同一成分・同効薬.....	19
9. 国際誕生年月日 .....	19
10. 製造販売承認年月日及び承認番号 .....	19
11. 薬価基準収載年月日 .....	20
12. 効能又は効果追加，用法及び用量変更追加等の年月日及びその内容.....	20
13. 再審査結果，再評価結果公表年月日及びその内容.....	20
14. 再審査期間.....	20
15. 投薬期間制限医薬品に関する情報 .....	20
16. 各種コード.....	20
17. 保険給付上の注意.....	20
<b>X I. 文献 .....</b>	<b>21</b>
1. 引用文献 .....	21
2. その他の参考文献.....	21
<b>X II. 参考資料 .....</b>	<b>21</b>
1. 主な外国での発売状況.....	21
2. 海外における臨床支援情報 .....	21
<b>X III. 備考 .....</b>	<b>22</b>
1. 調剤・服薬支援に際して臨床判断を行うにあたっての参考情報.....	22
2. その他の関連資料.....	22

## I. 概要に関する項目

### 1. 開発の経緯

本剤はロラタジンを有効成分とする持続性選択 H<sub>1</sub> 受容体拮抗・アレルギー性疾患治療剤である。

「ロラタジン OD 錠 10mg「興和テバ）」は、武田テバ薬品株式会社（旧大正薬品工業株式会社）が後発医薬品として開発を企画し、規格及び試験方法を設定、安定性試験、生物学的同等性試験を実施し、2011年7月15日に承認を取得し、2011年11月28日に販売を開始した。（薬食発第0331015号（平成17年3月31日）に基づき承認申請）

2012年2月2日付で「小児における用法及び用量」が追加された。

以下の販売名変更を行った。

承認年月日	販売名	旧販売名
2012年6月15日	ロラタジン OD 錠 10mg「TYK」	ロラタジン OD 錠 10mg「興和テバ」

2022年6月1日、武田テバ薬品株式会社から日医工岐阜工場株式会社に製造販売承認が承継され、その際に販売名の屋号を「TYK」から「NIG」に変更した。

2022年6月17日に薬価収載され、日医工株式会社が販売することとなった。

### 2. 製品の治療学的・製剤学的特性

- (1) 本剤はロラタジンを有効成分とする持続性選択 H<sub>1</sub> 受容体拮抗・アレルギー性疾患治療剤である。
- (2) 香料としてペパーミントフレーバーを使用している。
- (3) PTP シートはピッチコントロールを行い、1錠ごとに成分名、含量を表示した。
- (4) 重大な副作用（頻度不明）として、ショック、アナフィラキシー、てんかん、痙攣、肝機能障害、黄疸が報告されている。

## II. 名称に関する項目

### 1. 販売名

#### (1) 和名

ロラタジン OD 錠 10mg 「NIG」

#### (2) 洋名

Loratadine OD Tab.

#### (3) 名称の由来

一般名より

### 2. 一般名

#### (1) 和名 (命名法)

ロラタジン (JAN)

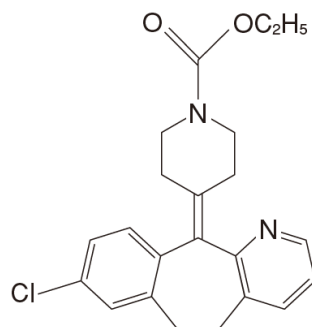
#### (2) 洋名 (命名法)

Loratadine (JAN)

#### (3) ステム

三環系ヒスタミン H<sub>1</sub> 受容体拮抗薬 : -tadine

### 3. 構造式又は示性式



### 4. 分子式及び分子量

分子式 : C<sub>22</sub>H<sub>23</sub>ClN<sub>2</sub>O<sub>2</sub>

分子量 : 382.88

### 5. 化学名 (命名法)

Ethyl 4-(8-chloro-5,6-dihydro-11*H*-benzo[5,6]cyclohepta[1,2-*b*]pyridin-11-ylidene)  
-1-piperidinecarboxylate (IUPAC)

### 6. 慣用名, 別名, 略号, 記号番号

特になし

### 7. CAS登録番号

79794-75-5

### Ⅲ. 有効成分に関する項目

#### 1. 物理化学的性質

##### (1) 外観・性状

白色の結晶又は結晶性の粉末である。

##### (2) 溶解性

メタノール, エタノール(99.5), アセトン又はトルエンに溶けやすく, アセトニトリルにやや溶けやすく, 水にほとんど溶けない。

##### (3) 吸湿性

該当資料なし

##### (4) 融点(分解点), 沸点, 凝固点

融点: 134~137℃

##### (5) 酸塩基解離定数

該当資料なし

##### (6) 分配係数

該当資料なし

##### (7) その他の主な示性値

該当資料なし

#### 2. 有効成分の各種条件下における安定性

該当資料なし

#### 3. 有効成分の確認試験法

##### (1) 紫外可視吸光度測定法

本品のメタノール溶液につき, 吸収スペクトルを測定するとき, 波長 245~249nm に吸収の極大を示す。

##### (2) 赤外吸収スペクトル測定法

臭化カリウム錠剤法により測定するとき, 波数 2985 $\text{cm}^{-1}$ , 2920 $\text{cm}^{-1}$ , 2865 $\text{cm}^{-1}$ , 1700 $\text{cm}^{-1}$ , 1655 $\text{cm}^{-1}$ , 1475 $\text{cm}^{-1}$ , 1435 $\text{cm}^{-1}$ , 1225 $\text{cm}^{-1}$ , 1170 $\text{cm}^{-1}$ , 1115 $\text{cm}^{-1}$ , 995 $\text{cm}^{-1}$ , 830 $\text{cm}^{-1}$ , 780 $\text{cm}^{-1}$ 及び 765 $\text{cm}^{-1}$ 付近に吸収を認める。

##### (3) 炎色反応試験

本品につき, 炎色反応試験(2)を行うとき, 緑色を呈する。

#### 4. 有効成分の定量法

液体クロマトグラフィー

検出器: 紫外吸光光度計

移動相: リン酸水素二カリウム, 水, アセトニトリル, メタノール, リン酸混液



#### IV. 製剤に関する項目

##### 1. 剤形

###### (1) 剤形の区別, 外観及び性状

販売名	ロラタジン OD 錠 10mg 「NIG」
性状	白色の素錠 (口腔内崩壊錠)
外形	
直径 (mm)	7.0
厚み (mm)	3.2
質量 (mg)	約 120
識別コード	KT LDO

###### (2) 製剤の物性

(「IV. 4. 製剤の各種条件下における安定性」の項参照)

###### (3) 識別コード

(「IV. 1. (1)剤形の区別, 外観及び性状」の項参照)

###### (4) pH, 浸透圧比, 粘度, 比重, 無菌の旨及び安定な pH 域等

該当しない

##### 2. 製剤の組成

###### (1) 有効成分 (活性成分) の含量

販売名	ロラタジン OD 錠 10mg 「NIG」
有効成分・含量	1 錠中 ロラタジン 10.0mg
添加物	D-マンニトール, ヒドロキシプロピルセルロース, スクラロース, 合成ケイ酸アルミニウム, ヒドロキシプロピルスターチ, 結晶セルロース, クロスポビドン, 香料, ステアリン酸マグネシウム

###### (2) 添加物

(「IV. 2. (1)有効成分 (活性成分) の含量」の項参照)

###### (3) その他

該当記載事項なし

##### 3. 懸濁剤, 乳剤の分散性に対する注意

該当しない

#### 4. 製剤の各種条件下における安定性<sup>1)</sup>

##### (1) 加速試験

最終包装製品を用いた加速試験 (40°C, 75%RH, 6 ヶ月) の結果, ロラタジン OD 錠 10mg 「NIG」は通常の市場流通下において 3 年間安定であることが推測された。

##### ◇ロラタジン OD 錠 10mg 「NIG」 加速試験 [PTP 包装]

試験項目 <規格>	ロット 番号	保存期間			
		開始時	1 ヶ月	3 ヶ月	6 ヶ月
性状 <白色の素錠>	1 2 3	白色の素錠	白色の素錠	白色の素錠	白色の素錠
確認試験 n=3 (紫外可視吸光度測定法, TLC)	1 2 3	適合	適合 <sup>※2</sup>	適合 <sup>※2</sup>	適合
崩壊性 (秒) n=18 <1 分以内に崩壊する>	1 2 3	18~25 20~29 21~38	23~29 <sup>※3</sup> 22~26 <sup>※3</sup> 18~24 <sup>※3</sup>	18~26 <sup>※3</sup> 22~34 <sup>※3</sup> 14~27 <sup>※3</sup>	17~27 18~27 18~31
製剤均一性 (%) n=3 (含量均一性試験) <15.0%以下>	1 2 3	3.2~4.0 2.0~3.7 1.8~2.9	2.6 <sup>※4</sup> 3.4 <sup>※4</sup> 2.8 <sup>※4</sup>	4.3 <sup>※4</sup> 2.3 <sup>※4</sup> 2.1 <sup>※4</sup>	3.5~5.5 2.0~3.1 2.1~3.1
溶出性 n=18 <30 分, 80%以上>	1 2 3	88.2~93.1 88.4~96.4 85.0~93.4	87.0~93.5 87.9~92.7 88.7~94.6	88.7~92.8 89.5~94.1 89.7~94.1	88.5~94.3 90.4~96.7 89.9~94.9
含量 (%) <sup>※1</sup> n=3 <95.0~105.0%>	1 2 3	96.2~97.8 98.4~99.1 97.9~99.3	96.3~97.4 98.7~100.4 98.3~99.5	96.3~97.8 97.6~98.0 98.3~99.3	96.7~97.6 98.7~99.8 98.7~99.1

※1: 表示量に対する含有率 (%)

※2: n=1 (TLC)      ※3: n=6      ※4: n=1

##### (2) 無包装の安定性試験

##### ◇ロラタジン OD 錠 10mg 「NIG」 無包装 室温 [室内散乱光]

試験項目 <規格>	保存期間			
	開始時	1 ヶ月	2 ヶ月	3 ヶ月
性状 <白色の素錠>	白色の素錠	白色の素錠	白色の素錠	白色の素錠
溶出性 (%) <30 分, 80%以上>	88.1~91.2	86.7~90.0	85.7~89.1	85.1~89.0
含量 (%) <sup>※</sup> <95.0~105.0%>	99.8	99.4	99.4	99.4
(参考値) 硬度 (N)	30.0~50.5	22.5~39.0	22.5~40.5	23.0~39.0

※: 表示量に対する含有率 (%)

### (3) 苛酷試験

◇ロラタジン OD錠 10mg 「NIG」 温度苛酷 60℃ [褐色ガラス瓶, 開栓]

ロット番号: 1

(最小値~最大値)

試験項目 <規格>	保存期間			
	開始時	1 ヶ月	2 ヶ月	3 ヶ月
性状 <白色の素錠>	白色の素錠	白色の素錠	白色の素錠 <sup>※2</sup>	白色の素錠 <sup>※2</sup>
溶出性 (%) <30分, 80%以上>	88.1~91.2	87.2~90.0	85.4~87.7	86.2~88.9
含量 (%) <sup>※1</sup> <95.0~105.0%>	99.4~100.0	98.2~99.0	97.5~98.6	97.3~98.3
(参考値) 硬度 (N) n=10	30.0~50.5	22.0~44.5	26.0~42.0	22.5~32.5

※1: 表示量に対する含有率 (%) ※2: 白色の範疇ではあるが, 開始時と比較するとわずかに黄色味を帯びていた。

◇ロラタジン OD錠 10mg 「NIG」 湿度苛酷 30℃・75%RH [褐色ガラス瓶, 開栓]

ロット番号: 1

(最小値~最大値)

試験項目 <規格>	保存期間				
	開始時	0.5 ヶ月	1 ヶ月	2 ヶ月	3 ヶ月
性状 <白色の素錠>	白色の素錠	白色の素錠	白色の素錠	白色の素錠	白色の素錠
溶出性 (%) <30分, 80%以上>	88.1~91.2	83.8~87.5	83.6~85.7	81.9~86.3	81.5~85.6
含量 (%) <sup>※</sup> <95.0~105.0%>	99.4~100.0	98.9~100.3	99.6~99.9	97.9~99.5	100.2~100.5
(参考値) 硬度 (N) n=10	30.0~50.5	15.0~25.0	15.5~20.5	12.5~25.5	15.0~26.0

※: 表示量に対する含有率 (%)

◇ロラタジン OD錠 10mg 「NIG」 光苛酷 曝光 120万 Lx・hr [約1000Lx, シャーレ開放]

試験項目 <規格>	総曝光量		
	開始時	60万 Lx・hr	120万 Lx・hr
性状 <白色の素錠>	白色の素錠	白色の素錠 <sup>※2</sup>	微黄白色の素錠
溶出性 (%) <30分, 80%以上>	88.1~91.2	89.2~92.0	86.3~88.5
含量 (%) <sup>※1</sup> <95.0~105.0%>	99.4~100.0	98.6~99.5	98.0~99.6
(参考値) 硬度 (N) n=10	30.0~50.5	19.5~36.0	20.5~35.0

※1: 表示量に対する含有率 (%) ※2: 白色の範疇ではあるが, 開始時と比較するとわずかに黄色味を帯びていた。

◇ロラタジン OD錠 10mg 「NIG」 光苛酷 曝光 120 万 Lx・hr [約 1000Lx, シャーレ, 遮光, 開放]

試験項目 <規格>	総曝光量	
	開始時	120 万 Lx・hr
性状 <白色の素錠>	白色の素錠	白色の素錠
溶出性 (%) <30 分, 80%以上>	88.1~91.2	84.7~89.0
含量 (%) * <95.0~105.0%>	99.4~100.0	99.0~100.4
(参考値) 硬度 (N) n=10	30.0~50.5	22.0~35.0

※: 表示量に対する含有率 (%)

◇ロラタジン OD錠 10mg 「NIG」 光苛酷 曝光 120 万 Lx・hr [約 1000Lx, PTP 包装]

試験項目 <規格>	総曝光量	
	開始時	120 万 Lx・hr
性状 <白色の素錠>	白色の素錠	白色の素錠
溶出性 (%) <30 分, 80%以上>	88.1~91.2	87.9~90.5
含量 (%) * <95.0~105.0%>	99.4~100.0	97.6~100.1
(参考値) 硬度 (N) n=10	30.0~50.5	24.0~35.0

※: 表示量に対する含有率 (%)

◇ロラタジン OD錠 10mg 「NIG」 光苛酷 曝光 120 万 Lx・hr [約 1000Lx, ポリエチレン製容器, 密栓]

試験項目 <規格>	総曝光量	
	開始時	120 万 Lx・hr
性状 <白色の素錠>	白色の素錠	白色の素錠
溶出性 (%) <30 分, 80%以上>	88.1~91.2	85.4~91.2
含量 (%) * <95.0~105.0%>	99.4~100.0	98.7~100.9
(参考値) 硬度 (N) n=10	30.0~50.5	26.5~47.5

## 5. 調製法及び溶解後の安定性

該当しない

## 6. 他剤との配合変化 (物理化学的变化)

該当しない

## 7. 溶出性<sup>2)</sup>

<ロラタジン OD錠 10mg「NIG」>

後発医薬品の生物学的同等性試験ガイドライン等の一部改正について（薬食審査発第1124004号 平成18年11月24日付）

試験条件

装置：日本薬局方 溶出試験法 パドル法

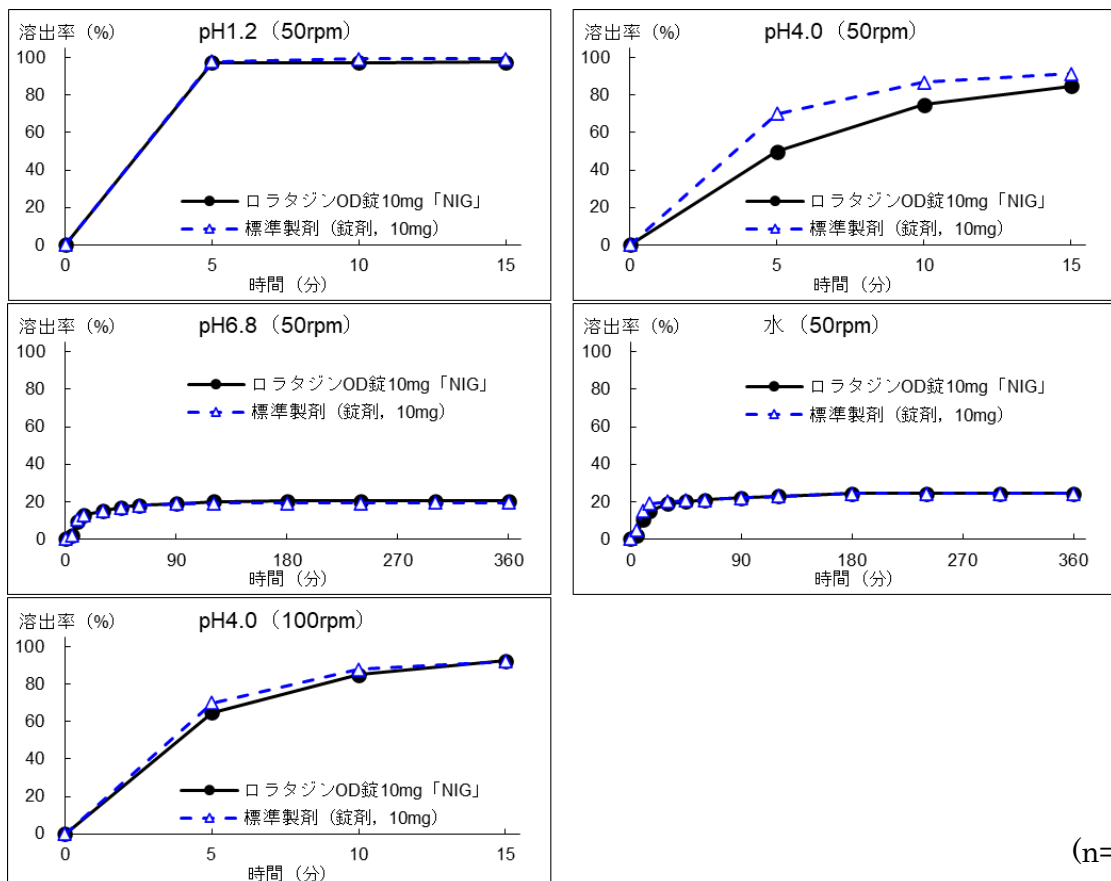
回転数及び試験液：50rpm (pH1.2, pH4.0, pH6.8, 水), 100rpm (pH4.0)

[判定]

- pH1.2 (50rpm) では、標準製剤及び本品はともに 15 分以内に平均 85%以上溶出した。
- pH4.0 (50rpm) では、標準製剤は 15 分以内に平均 85%以上溶出し、15 分における本品の平均溶出率は標準製剤の平均溶出率±15%の範囲にあった。
- pH6.8 (50rpm) では、標準製剤が 360 分における平均溶出率の 1/2 の平均溶出率を示す適当な時点及び 360 分において、本品の平均溶出率は標準製剤の平均溶出率±9%の範囲にあった。
- 水 (50rpm) では、標準製剤が 360 分における平均溶出率の 1/2 の平均溶出率を示す適当な時点及び 360 分において、本品の平均溶出率は標準製剤の平均溶出率±9%の範囲にあった。
- pH4.0 (100rpm) では、標準製剤及び本品はともに 15 分以内に平均 85%以上溶出した。

以上、本品の溶出挙動を標準製剤と比較した結果、上記全ての溶出試験条件において「後発医薬品の生物学的同等性試験ガイドライン」の判定基準に適合した。

(溶出曲線)



(n=12)

## 8. 生物学的試験法

該当しない

## 9. 製剤中の有効成分の確認試験法

### (1) 紫外可視吸光度測定法

本品のメタノール溶液につき吸収スペクトルを測定するとき、波長 244～248nm に吸収の極大を示す。

### (2) 薄層クロマトグラフィー

試料溶液と標準溶液から得たスポットの  $R_f$  値は等しい。

## 10. 製剤中の有効成分の定量法

液体クロマトグラフィー

検出器：紫外吸光光度計

移動相：リン酸水素二カリウム，メタノール，アセトニトリル，リン酸混液

## 11. 力価

該当しない

## 12. 混入する可能性のある夾雑物

該当資料なし

## 13. 注意が必要な容器・外観が特殊な容器に関する情報

該当しない

## 14. その他

## V. 治療に関する項目

### 1. 効能又は効果

アレルギー性鼻炎，蕁麻疹，皮膚疾患（湿疹・皮膚炎，皮膚そう痒症）に伴うそう痒

### 2. 用法及び用量

成人：通常，ロラタジンとして1回10mgを1日1回，食後に経口投与する。なお，年齢・症状により適宜増減する。

小児：通常，7歳以上の小児にはロラタジンとして1回10mgを1日1回，食後に経口投与する。

#### <用法・用量に関連する使用上の注意>

本剤は口腔内で速やかに崩壊することから唾液のみ（水なし）でも服用可能であるが，口腔粘膜から吸収されることはないため，水なしで服用した場合は唾液で飲み込むこと。

### 3. 臨床成績

#### (1) 臨床データパッケージ

該当資料なし

#### (2) 臨床効果

該当資料なし

#### (3) 臨床薬理試験

該当資料なし

#### (4) 探索的試験

該当資料なし

#### (5) 検証的試験

##### 1) 無作為化並行用量反応試験

該当資料なし

##### 2) 比較試験

該当資料なし

##### 3) 安全性試験

該当資料なし

##### 4) 患者・病態別試験

該当資料なし

#### (6) 治療的使用

##### 1) 使用成績調査・特定使用成績調査(特別調査)・製造販売後臨床試験(市販後臨床試験)

該当資料なし

##### 2) 承認条件として実施予定の内容又は実施した試験の概要

該当しない

## VI. 薬効薬理に関する項目

### 1. 薬理的に関連ある化合物又は化合物群

H<sub>1</sub>受容体拮抗剤（フェキソフェナジン塩酸塩、オロパタジン塩酸塩、セチリジン塩酸塩、エピナスチン塩酸塩、エバスチン、ベボタスチンベシル酸塩、オキサトミド、アゼラスチン塩酸塩、ケトチフェンフマル酸塩、エメダスチンフマル酸塩 等）

### 2. 薬理作用

#### (1) 作用部位・作用機序

ロラタジンは、持続性の選択的ヒスタミン H<sub>1</sub> 受容体拮抗薬で、体内で速やかに活性代謝物（DCL）に代謝され、ロラタジン及び DCL がヒスタミン H<sub>1</sub> 受容体拮抗作用を示すことでアレルギー症状を抑制すると考えられている。ロラタジンは脳-血液関門を通過しにくいため鎮静作用が少ないという特性を有する。

#### (2) 薬効を裏付ける試験成績

該当資料なし

#### (3) 作用発現時間・持続時間

該当資料なし



## VII. 薬物動態に関する項目

### 1. 血中濃度の推移・測定法

#### (1) 治療上有効な血中濃度

該当資料なし

#### (2) 最高血中濃度到達時間

(VII. 1. (3)「臨床試験で確認された血中濃度」の項参照)

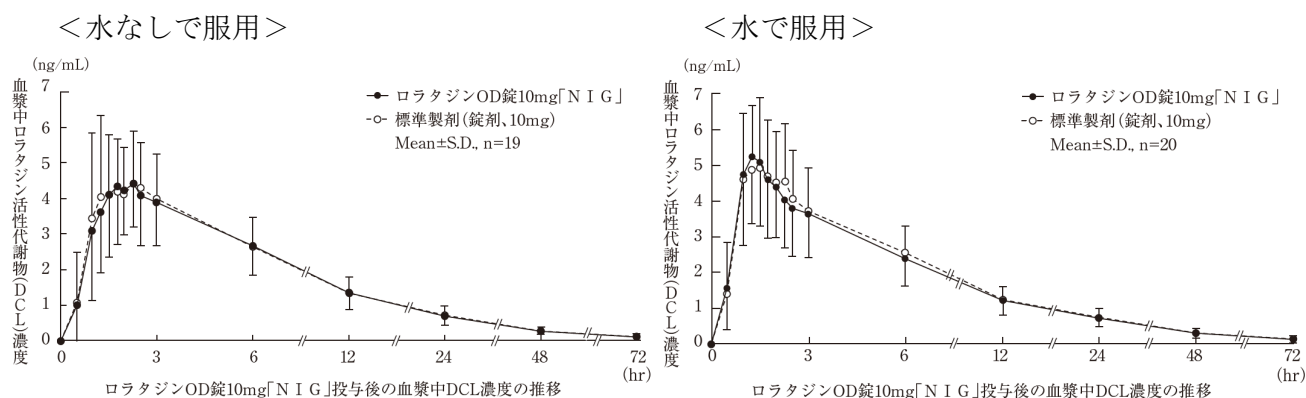
#### (3) 臨床試験で確認された血中濃度

<ロラタジン OD錠 10mg「NIG」><sup>3)</sup>

後発医薬品の生物学的同等性試験ガイドライン等の一部改正について（平成 18 年 11 月 24 日付 薬食審査発第 1124004 号）

ロラタジン OD錠 10mg「NIG」と標準製剤をクロスオーバー法により、それぞれ 1錠（ロラタジンとして 10mg）を健康成人男子に空腹時単回経口投与して血漿中活性代謝物 descarboethoxyloratadine（DCL）※濃度を測定し、得られた薬物動態パラメータ（AUC, Cmax）について統計解析を行った結果、両剤の生物学的同等性が確認された。

※ 血漿中の活性代謝物 DCL は、経口投与した際の主たる臨床効果に寄与している。



#### [薬物速度論的パラメータ]

		判定パラメータ		参考パラメータ	
		AUCt (ng・hr/mL)	Cmax (ng/mL)	Tmax (hr)	t1/2 (hr)
水なしで服用	ロラタジン OD錠 10mg「NIG」	60.09±18.29	5.19±1.58	1.70±0.62	19.05±2.70
	標準製剤 (錠剤, 10mg)	61.09±17.54	5.50±1.57	1.72±0.59	18.48±4.03
水で服用	ロラタジン OD錠 10mg「NIG」	60.31±18.42	5.60±1.67	1.31±0.24	20.64±3.56
	標準製剤 (錠剤, 10mg)	62.17±18.59	5.61±1.78	1.36±0.34	20.76±2.81

(Mean±S.D., 水なし n=19, 水あり n=20)

血漿中濃度並びに AUC, Cmax 等のパラメータは、被験者の選択, 体液の採取回数・時間等の試験条件によって異なる可能性がある。

**(4) 中毒域**

該当資料なし

**(5) 食事・併用薬の影響**

(「Ⅷ. 7. 相互作用」の項参照)

**(6) 母集団 (ポピュレーション) 解析により判明した薬物体内動態変動要因**

該当資料なし

**2. 薬物速度論的パラメータ**

**(1) 解析方法**

該当資料なし

**(2) 吸収速度定数**

該当資料なし

**(3) バイオアベイラビリティ**

該当資料なし

**(4) 消失速度定数**

該当資料なし

**(5) クリアランス**

該当資料なし

**(6) 分布容積**

該当資料なし

**(7) 血漿蛋白結合率**

該当資料なし

**3. 吸収**

該当資料なし

**4. 分布**

**(1) 血液-脳関門通過性**

(「Ⅵ. 2. (1)作用部位・作用機序」の項参照)

**(2) 血液-胎盤関門通過性**

(「Ⅷ. 10. 妊婦, 産婦, 授乳婦等への投与」の項参照)

**(3) 乳汁への移行性**

(「Ⅷ. 10. 妊婦, 産婦, 授乳婦等への投与」の項参照)

**(4) 髄液への移行性**

該当資料なし

**(5) その他の組織への移行性**

該当資料なし

**5. 代謝**

**(1) 代謝部位及び代謝経路**

該当資料なし

**(2) 代謝に関与する酵素 (CYP450 等) の分子種**

ロラタジンから活性代謝物 (DCL) への代謝には CYP3A4 及び CYP2D6 の関与が確認されている。

**(3) 初回通過効果の有無及びその割合**

該当資料なし

**(4) 代謝物の活性の有無及び比率**

(「Ⅶ. 5. (2) 代謝に関与する酵素 (CYP450 等) の分子種」の項参照)

**(5) 活性代謝物の速度論的パラメータ**

該当資料なし

**6. 排泄**

**(1) 排泄部位及び経路**

該当資料なし

**(2) 排泄率**

該当資料なし

**(3) 排泄速度**

該当資料なし

**7. トランスポーターに関する情報**

該当資料なし

**8. 透析等による除去率**

(「Ⅷ. 13. 過量投与」の項参照)

## Ⅷ. 安全性（使用上の注意等）に関する項目

### 1. 警告内容とその理由

該当記載事項なし

### 2. 禁忌内容とその理由（原則禁忌を含む）

#### 【禁忌（次の患者には投与しないこと）】

本剤の成分に対し過敏症の既往歴のある患者

### 3. 効能又は効果に関連する使用上の注意とその理由

該当しない

### 4. 用法及び用量に関連する使用上の注意とその理由

（「Ⅴ. 治療に関する項目」を参照）

### 5. 慎重投与内容とその理由

#### 【慎重投与（次の患者には慎重に投与すること）】

- （1）肝障害のある患者〔ロラタジンの血漿中濃度が上昇するおそれがある。〕
- （2）腎障害のある患者〔ロラタジン及び活性代謝物descarboethoxyloratadine（DCL）の血漿中濃度が上昇するおそれがある。〕
- （3）高齢者（「高齢者への投与」の項参照）

### 6. 重要な基本的注意とその理由及び処置方法

- （1）本剤を季節性の患者に投与する場合は、好発季節を考慮して、その直前から投与を開始し、好発季節終了時まで続けることが望ましい。
- （2）本剤の使用により効果が認められない場合には、漫然と長期にわたり投与しないように注意すること。

### 7. 相互作用

ロラタジンから活性代謝物（DCL）への代謝には CYP3A4 及び CYP2D6 の関与が確認されている。

#### （1）併用禁忌とその理由

該当記載事項なし

#### （2）併用注意とその理由

##### 併用注意（併用に注意すること）

薬剤名等	臨床症状・措置方法	機序・危険因子
エリスロマイシン シメチジン	ロラタジン及び活性代謝物（DCL）の血漿中濃度の上昇が認められるので、患者の状態を十分に観察するなど注意すること。	薬物代謝酵素（CYP3A4、CYP2D6）阻害作用を有する医薬品との併用により、ロラタジンから活性代謝物（DCL）への代謝が阻害され、ロラタジンの血漿中濃度が上昇する。〔活性代謝物（DCL）の血漿中濃度が上昇する機序は不明〕

## 8. 副作用

### (1) 副作用の概要

本剤は使用成績調査等の副作用発現頻度が明確となる調査を実施していない。

### (2) 重大な副作用と初期症状（頻度不明）

- 1) **ショック，アナフィラキシー**：ショック，アナフィラキシーを起こすことがあるので，チアノーゼ，呼吸困難，血圧低下，血管浮腫等があらわれた場合には投与を中止し，適切な処置を行うこと。
- 2) **てんかん**：てんかんの既往のある患者で本剤投与後に発作があらわれたとの報告があるので使用に際しては十分な問診を行うこと。
- 3) **痙攣**：痙攣があらわれることがあるので，異常が認められた場合には投与を中止し，適切な処置を行うこと。
- 4) **肝機能障害，黄疸**：AST (GOT)，ALT (GPT)， $\gamma$ -GTP，Al-P，LDH，ビリルビン等の著しい上昇を伴う肝機能障害，黄疸があらわれることがあるので，観察を十分に行い，異常が認められた場合には投与を中止し，適切な処置を行うこと。

### (3) その他の副作用

次のような副作用が認められた場合には，必要に応じ，投与中止等の適切な処置を行うこと。

	頻度不明
<b>精神神経系</b>	眠気，倦怠感，めまい，頭痛
<b>呼吸器</b>	咽頭痛，鼻の乾燥感
<b>消化器</b>	腹痛，口渇，嘔気・嘔吐，下痢，便秘，口唇乾燥，口内炎，胃炎
<b>過敏症</b>	発疹，蕁麻疹，紅斑，そう痒，発赤
<b>皮膚</b>	脱毛
<b>肝臓</b>	AST (GOT) 上昇，ALT (GPT) 上昇，ビリルビン値上昇，Al-P 上昇， $\gamma$ -GTP 上昇
<b>腎臓</b>	蛋白尿，BUN 上昇，尿閉
<b>循環器</b>	動悸，頻脈
<b>血液</b>	好酸球増多，白血球減少，好中球減少，単球増多，リンパ球減少，白血球増多，リンパ球増多，ヘマトクリット減少，ヘモグロビン減少，好塩基球増多，血小板減少，好中球増多
<b>その他</b>	尿糖，眼球乾燥，耳鳴，難聴，ほてり，浮腫（顔面・四肢），味覚障害，月経不順，胸部不快感，不正子宮出血，胸痛

### (4) 項目別副作用発現頻度及び臨床検査値異常一覧

該当資料なし

### (5) 基礎疾患，合併症，重症度及び手術の有無等背景別の副作用発現頻度

該当資料なし

## (6) 薬物アレルギーに対する注意及び試験法

- 1) **禁忌**：本剤の成分に対し過敏症の既往歴のある患者には投与しないこと。
- 2) **重大な副作用**：ショック、アナフィラキシーを起こすことがあるので、チアノーゼ、呼吸困難、血圧低下、血管浮腫等があらわれた場合には投与を中止し、適切な処置を行うこと。
- 3) **その他の副作用**：過敏症（発疹、蕁麻疹、紅斑、そう痒、発赤）が認められた場合には、必要に応じ、投与中止等の適切な処置を行うこと。

## 9. 高齢者への投与

一般に高齢者では生理機能（肝、腎等）が低下しており、高い血中濃度が持続するおそれがあるので、慎重に投与すること。

## 10. 妊婦、産婦、授乳婦等への投与

- (1) 妊婦又は妊娠している可能性のある婦人には、投与を避けることが望ましい。〔妊娠中の投与に関する安全性は確立していない。また、動物試験（ラット、ウサギ）で催奇形性は認められないが、ラットで胎児への移行が報告されている。〕
- (2) 授乳中の婦人には、投与を避けることが望ましい。やむを得ず投与する場合は、授乳を避けさせること。〔ヒト母乳中への移行が報告されている。〕

## 11. 小児等への投与

- (1) 3歳以上7歳未満の小児に対しては、ロラタジンドライシロップ1%を投与すること。
- (2) 低出生体重児、新生児、乳児又は3歳未満の幼児に対する安全性は確立していない。〔使用経験がない。〕

## 12. 臨床検査結果に及ぼす影響

本剤は、アレルギー皮膚反応を抑制するため、アレルギー皮膚反応検査を実施する 3～5 日前より本剤の投与を中止すること。

## 13. 過量投与

- (1) **徴候・症状**：海外において、過量投与（40mg から 180mg）により眠気、頻脈、頭痛が報告されている。
- (2) **処置**：一般的な薬物除去法（胃洗浄、活性炭投与等）により、本剤を除去する。また、必要に応じて対症療法を行う。なお、本剤は血液透析によって除去できない。

## 14. 適用上の注意

- (1) **薬剤交付時**：PTP 包装の薬剤は PTP シートから取り出して服用するよう指導すること。（PTP シートの誤飲により、硬い鋭角部が食道粘膜へ刺入し、更には穿孔を起こして縦隔洞炎等の重篤な合併症を併発することが報告されている。）
- (2) **服用時**：本剤は舌の上への唾液を浸潤させ舌で軽くつぶし、崩壊後唾液のみで服用可能である。また、水で服用することもできる。ただし、寝たままの状態では水なしで服用しないこと。

## 15. その他の注意

該当記載事項なし

## 16. その他

該当記載事項なし

## **IX. 非臨床試験に関する項目**

### **1. 薬理試験**

(1) 薬効薬理試験 (「VI. 薬効薬理に関する項目」参照)

(2) 副次的薬理試験

該当資料なし

(3) 安全性薬理試験

該当資料なし

(4) その他の薬理試験

該当資料なし

### **2. 毒性試験**

(1) 単回投与毒性試験

該当資料なし

(2) 反復投与毒性試験

該当資料なし

(3) 生殖発生毒性試験

該当資料なし

(4) その他の特殊毒性

該当資料なし

## X. 管理的事項に関する項目

### 1. 規制区分

製剤	ロラタジン OD 錠 10mg「NIG」	なし
有効成分	ロラタジン	なし

### 2. 有効期間又は使用期限

外箱に表示（3年：安定性試験結果に基づく）

### 3. 貯法・保存条件

室温保存（開封後は湿気を避けて保存すること）

### 4. 薬剤取扱い上の注意点

#### （1）薬局での取り扱い上の留意点について

（「貯法・保存条件」の項参照）

#### （2）薬剤交付時の取扱いについて（患者等に留意すべき必須事項等）

くすりのしおり：有

（「Ⅷ. 安全性（使用上の注意等）」に関する項目」の項参照）

#### （3）調剤時の留意点について

該当記載事項なし

### 5. 承認条件等

該当しない

### 6. 包装

50錠（PTP10錠×5）

### 7. 容器の材質

PTP包装：ポリ塩化ビニルフィルム，アルミニウム箔

### 8. 同一成分・同効薬

同一成分：クラリチンレディタブ錠 10mg

### 9. 国際誕生年月日

不明

### 10. 製造販売承認年月日及び承認番号

販売名	承認年月日	承認番号
ロラタジン OD 錠 10mg「NIG」	2012年6月15日	22400AMX00712000

旧販売名	承認年月日	承認番号
ロラタジン OD 錠 10mg「TYK」	2012年6月15日	22400AMX00712000

旧販売名	承認年月日	承認番号
ロラタジン OD 錠 10mg 「興和テバ」	2011年7月15日	22300AMX00844000



11. 薬価基準収載年月日

販売名	薬価基準収載年月日
ロラタジン OD 錠 10mg 「NIG」	2022 年 6 月 17 日

旧販売名	薬価基準収載年月日
ロラタジン OD 錠 10mg 「TYK」	2012 年 12 月 14 日

旧販売名	薬価基準収載年月日
ロラタジン OD 錠 10mg 「興和テバ」	2011 年 11 月 28 日

12. 効能又は効果追加，用法及び用量変更追加等の年月日及びその内容

<用法及び用量の追加>

用法及び用量追加年月日：2012 年 2 月 2 日

内 容：

	用法・用量 追加後	用法・用量 追加前
効能・効果	アレルギー性鼻炎，蕁麻疹，皮膚疾患（湿疹・皮膚炎，皮膚そう痒症）に伴うそう痒	アレルギー性鼻炎，蕁麻疹，皮膚疾患（湿疹・皮膚炎，皮膚そう痒症）に伴うそう痒
用法・用量	成人：通常，ロラタジンとして 1 回 10mg を 1 日 1 回，食後に経口投与する。なお，年齢・症状により適宜増減する。 <u>小児：通常，7 歳以上の小児にはロラタジンとして 1 回 10mg を 1 日 1 回，食後に経口投与する。</u>	成人：通常，ロラタジンとして 1 回 10mg を 1 日 1 回，食後に経口投与する。なお，年齢・症状により適宜増減する。

(    ：用法・用量追加に伴う追加箇所)

13. 再審査結果，再評価結果公表年月日及びその内容

該当しない

14. 再審査期間

該当しない

15. 投薬期間制限医薬品に関する情報

本剤は，投薬期間に関する制限は定められていない。

（「Ⅷ. 安全性（使用上の注意等）」に関する項目」の項参照）

16. 各種コード

販売名	薬価基準収載 医薬品コード	レセプト 電算コード	HOT(9 桁) コード
ロラタジン OD 錠 10mg 「NIG」	4490027F2266	622097804	120978504

旧販売名	薬価基準収載 医薬品コード	レセプト 電算コード	HOT(9 桁) コード
ロラタジン OD 錠 10mg 「TYK」	4490027F2240	622097802	120978503

17. 保険給付上の注意

本剤は診療報酬上の後発医薬品である。

## **X I . 文 献**

### **1. 引用文献**

- 1) 日医工岐阜工場株式会社 社内資料 (安定性試験)
- 2) 日医工岐阜工場株式会社 社内資料 (溶出試験)
- 3) 日医工岐阜工場株式会社 社内資料 (生物学的同等性試験)

### **2. その他の参考文献**

なし

## **X II . 参 考 資 料**

### **1. 主な外国での発売状況**

なし

### **2. 海外における臨床支援情報**

なし

## XIII. 備考

### 1. 調剤・服薬支援に際して臨床判断を行うにあたっての参考情報

#### 本項の情報に関する注意

本項には承認を受けていない品質に関する情報が含まれる。  
試験方法等が確立していない内容も含まれており、あくまでも記載されている試験方法で得られた結果を事実として提示している。

医療従事者が臨床適用を検討する上での参考情報であり、加工等の可否を示すものではない。

#### (1) 粉碎

##### 粉碎物の安定性試験

##### ロラタジン OD 錠 10mg 「NIG」

ロラタジン OD 錠 10mg 「NIG」の粉碎物安定性を室温の保存条件で検討した結果、性状は白色の粉末であり、含量は規格内であった。

#### ● 粉碎物 室温 [室内散乱光下] (最小値～最大値)

試験項目 <規格>	ロット 番号	保存期間		
		開始時	0.5 ヶ月	1 ヶ月
性状	1	白色の粉末	白色の粉末	白色の粉末
含量 (%) ※ <95.0～105.0%>	1	98.0～98.6	97.9～98.1	97.1～97.4

※：表示量に対する含有率 (%)

#### (2) 崩壊・懸濁性及び経管投与チューブの通過性

##### ロラタジン OD 錠 10mg 「NIG」

##### 1) 試験方法

###### [崩壊懸濁試験]

ディスペンサーのピストン部を抜き取り、検体 1 個をディスペンサー内に入れてピストンを戻し、約 55℃の温湯 20mL を吸い取った。ディスペンサーに蓋をして 5 分間放置後、ディスペンサーを手で 15 往復横転し、崩壊懸濁の状況を観察した。十分な崩壊が認められない場合は、更に 5 分間放置後、同様の操作を行い、崩壊懸濁の状況を観察した。

上記の操作で十分な崩壊懸濁が認められない場合は、検体 1 個を分包し、上から乳棒で数回軽く叩いて検体を破壊し、同様の操作を行い、崩壊懸濁の状況を観察した。

###### [通過性試験]

懸濁液の入ったディスペンサーを経管チューブに接続し、約 2～3mL/秒の速度で注入した。チューブは体内挿入端から約 3 分の 2 を水平にし、注入端をその約 30cm 上の高さに固定した。注入後に適量の常水を注入してチューブ内を濯ぐときのチューブ内の残存物の有無にて通過性を観察した。

##### 2) 試験結果

	崩壊懸濁試験	通過性試験
ロラタジン OD 錠 10mg 「NIG」	5 分以内に崩壊・懸濁した。	8Fr.チューブを通過した。

本試験は、「内服薬 経管投与ハンドブック ((株) じほう)」に準じて実施しました。

#### 2. その他の関連資料

なし